

金属プレスと精密板金の融合

渡邊プレス工業株式会社

業界の先駆けとしてプレス加工の自動化に取り組んできた渡邊プレス工業は1993年、板金加工による建機部品製造の岡本製作所のグループ企業の一員となる。

岡本製作所で現場経験を積み、そして現在、渡邊プレス工業社長となった岡本太郎氏は、金属プレスと精密板金の融合をテーマに経営革新に挑んでいる。

本場のプロのモノづくり

渡邊プレス工業は、弱電・OA機器に使用される、中・小・薄物の精密プレス部品を手掛けている。その技術力により、大手複写機メーカーからの品質保証認定も受けている。

けれど、オカモトグループ再構築のため、渡邊プレス工業に派遣された岡本太郎社長は、「国内量産プレスの厳しさに直面した」と語る。

中国との競争。だからといって、安直な非量産では差がつかない。目指すべきは「本場のプロのモノづくり」と言う岡本社長自身が板金屋出身であり、製造部長を務める樋口義嗣氏もまた、板金のプロフェッショナルだった。一方では、渡邊プレス工業には、長年培った精密プレスの技術力がある。この

二つを融合させたなら———それが「生き残る道だと思った」。

第2の創業

（2002年の工場移転は）第

二の創業みたいなものだった」と岡本社長は当時を振り返る。

目指す工場の実現に向けて、トルンプレーザー複合加工機や、コマツACサーボプレスといった最



若手社員に囲まれた岡本社長（前列中央）。背景はトルン複合加工機。

新設備を次々と導入。同時に、適材適所の人材配置にも取り組んだ。

やる気と能力があるならば、国籍も年齢も関係ない。その言葉どおり、20代にして係長に昇格した者もいる。係長以上の管理職に対しては、毎日朝会を開き、さまざまな話し合いのなかでモチベーションを高め、成長を促した。この朝会をはじめ、すでに5年が過ぎていた。

革新は続く

人と設備の革新により、金属プレスと精密板金の融合が機能しはじめた現在、試作段階においては、金型プレスの板金加工で設計変更にも柔軟に対応。設計の確定後には、タップカシメや電装、塗装、溶接、組立まで含めた生産体制により、短納期・低コスト・高品質の量産を可能にする。また、これらの多彩な選択肢による工法提案も積極的に行っている。さらに近々、また新たな設備の導入も予定している。

「自分が成長していれば、社員もそれだけ成長してくれるから」。

岡本社長と渡邊プレスの革新は続く。

編集部／近江匡宜



ACサーボプレス。従来のプレス部門でも応用力を高める。

Company Profile

渡邊プレス工業株式会社

所在地：東京都 武蔵村山市伊奈平1-71-1

TEL: 042-560-0551 FAX: 042-560-2828

担当者：代表取締役社長 岡本太郎

事業内容：金属プレス加工、試作版金、塗装、タップカシメ、電装などのアッセンブリ

エミダス会社・工場詳細情報：

<http://www.nc-net.or.jp/emidas/gaiyou.php?78749>

※「エミダス工場検索」のキーワード検索

「渡邊プレス」で検索できます。

本誌付録の「ザ・日本製造業パワーアップCD-ROM」にて、同社の工場技術動画をご紹介します！

